

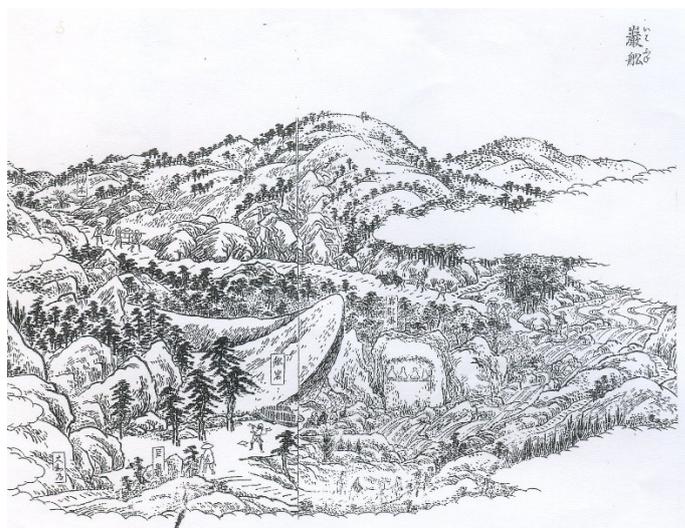
かたの瓦版

この時、交野は動いた

「天孫降臨の地」

「先代旧事本記」より

饒速日の尊は、天神のご命令で、天の磐船に乗り、河内の国の哮峰に天下った、さらに、大倭の国の鳥見の白庭山にうつった」とある。



降臨地「哮峰」



天磐船

「日本書記」では

神武天皇のことばとして

塩土の老翁から聞いた。「東によい土地がある。青い山が四方をめぐっている。その中に、天の磐船に乗ってとび下ったものがある」自分が思うに、その土地は天下に君臨するのにふさわしいであろう。

天下の中心の地というべきであろうか。そのとび下ったものは、饒速日というか。

行って都をつくるであろうではないか、物部氏の祖・饒速日の尊が、畿内大和へ東遷降臨した。

古事記と日本書記の記述は、ほぼ同じであるが、古事記では、饒速日の命が、神武天皇のあとを追って

天下りしていることになっている。

神話とは

洋の東西を問わず、神話では、人は神によって作られる。

しかし事實は、人が神を作るのである。

古代の人々の作った神々の物語が神話である。

神話は、はじめに作られたまま、一定不変の形で伝承されたものではない。

時とともに内容をいくらずつ変えている。

何らかの意味で、時代あるいは社会の要求に応ずるものとして、おこった、あるいはおこらされたのである。神話は、それが作られてから記録されるまでのあいだの、時代の特色や社会の性格の何かを反映しているにちがいない。

成立事情を問題とすることなく、たとえどんなに不思議な神の物語でも、古代の人がそれを信じて、言い継ぎ、語りいできたことのなかには、動かすことのできない事実の背景があるものと思わねばならない。

人の代の前に神代があり、神々が実在し、神話に語られているようなことがらが実際におこったとするのである。

事件?事故?災害?

未明、大きな揺れとともに稲妻が窓をうった、同時にキナ臭い匂いも漂っていた。

何ごとか、地震・雷・火事・親父か、まだ親父は気づいていないようだ。

それで、家族の部屋に行って皆を叩き起こす

そして表に出てみると近所の人々が思い思いに恐怖心をあらわに怯えていた。

翌日の某の代・某月・某日「瓦版」が発行された。

タイトルは

「岩船山に石舟が落ちた」

一帯の山は延焼中、死者、けが人、行方不明者、未確認！

交野地方全域に救援要請が出された。

私はとにかく磐船山を目指し磐船街道を走った。

到着した時には、興原敏久氏(旧事本記の編纂者)がおられ説明をうけた。

饒速日の尊が、天神のご命令で、天の磐船に乗り、河内の国の哮峰に天下ったということでした。

神武天皇よりもまえに、物部氏の祖・饒速日の尊が、畿内大和へ東遷降臨していたことも。

ということは、饒速日の尊と皇室の祖・邇邇杵の尊とは、兄弟？

神話は歴史的事実の記述ではないが、やはり歴史の材料として重要である。

この事をきっかけに村人たちは一致団結と和の文化を広めることに。

今後の展開に期待をこめて。